令和４年度第２回成田市地域包括支援センター等運営協議会会議録概要

１　開催日時

令和５年３月２２日（水）午後２時から午後３時３０分まで

２　開催場所

成田市役所　議会棟３階　執行部控室

３　出席者

（委員）

山下会長，篠田委員，長島委員，吉田委員，塚田委員，北村委員，宮下委員　以上７人

（欠席：岩松委員、石井委員、宮﨑委員）

（事務局）

米本福祉部長

平岡介護保険課長，青野係長，築比地副主幹，加瀬副主査

窺高齢者福祉課長，窪木係長，佐藤係長

西部北地域包括支援センター（北村管理者）

南部地域包括支援センター（井上管理者）

西部南地域包括支援センター（林管理者）

東部地域包括支援センター(岩澤管理者)

西部西地域包括支援センター（木下管理者）

４　会議次第

１　開　会

２　福祉部長挨拶

３　事務局職員紹介

４　議　題

（１）地域包括支援センターの運営等に関すること

①令和４年度地域包括支援センターの評価について

②令和５年度地域包括支援センター事業計画について

③介護予防支援業務等の一部委託について

（２）地域密着型サービスの運営等に関すること

（３）その他

５　閉　会

５　議事（要旨）

（１）地域包括支援センターの運営等に関すること

①令和４年度地域包括支援センターの評価について

○事務局

「地域包括支援センターの運営等に関すること」のうち，「①令和４年度地域包括支援センターの評価について」に関して説明。

その際の主な質疑は次のとおり。

●篠田委員
成田市全体の評価はあるのか。また、実地検査があるとのことだが、その評価方法について教えてほしい。能力を心配しているわけではないが、市職員は異動があると思う。検査スキルはどのようになっているのか。

○事務局
地域包括支援センターごとの評価と市全体で取りまとめた評価については、説明したとおりである。その中で、好事例などを評価し、市で改善する必要があると判断した点については、改善すべき点、検討すべき課題として挙げている。
地域包括支援センターの評価については、事業を運営するにあたり、厚労省からの通知に検査の視点などが示されており、それらを熟読し、理解した上で検査を行っている。また、評価するにあたっては、書面上に限らず、地域包括支援センターの職員と市職員間で毎月１回、定例会を開催して情報共有を行っているため、定例会において、取り上げられた連携すべき課題や地域の問題などの内容を落とし込みながら実地指導を行っている。よって、職員のスキルについては、きちんと評価ができる体制は整っていると捉えている。

●篠田委員
要するに、チェックリストのようなものがあるということか。

○事務局
基準に沿ったチェックリストを用意している。

●篠田委員
39 ページの Q16、3 職種の項目について、すべてのセンターが×の回答となっているが、これは何故か。また、今後どのように対応していくのか。全国平均も低くなっているが、すべて×だとやはり目立ってしまう。

○事務局
地域包括支援センターは、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員の 3 職種を配置することが基本となっており、保健師について配置できていないため、×の回答となっているが、保健師に代わり訪問看護に携わるなど地域ケアに経験がある看護師を配置して対応している。

●山下会長
40 ページの Q43 について、コロナが原因だったのか、やり方などに根本的な課題があるからこのような事態になっているのか、教えてほしい。

○事務局
　実際に運営を行っているのは地域包括支援センターの職員のため、詳しいのは包括職員の方だとは思うが、やはりコロナ禍ということで対面での会議が開催できない点などが影響していると思う。ただ、そのような中でもオンラインでの開催など、包括の職員も工夫して実施につなげてきたという結果はある。

②令和５年度地域包括支援センター事業計画について
③介護予防支援業務等の一部委託について

○事務局
　「②令和５年度地域包括支援センター事業計画について」、「③介護予防支援業務等の一部委託について」に関して，事務局から説明後、管理者から各地域包括支援センターの事業計画や課題等について説明。

　その際の主な質疑は次のとおり。

●篠田委員
　西部北地域包括支援センターの「地域ケア会議」の説明にあった「妄想」とはどういった事例なのか。

○北村管理者（西部北地域包括支援センター）
　何が原因で起こるのかは分からないが、事実ではないことを話すことで、まわりの方がそれに振り回されてしまうなど、それによって様々な問題が起き、解決が困難になってしまっている事例が多くあった。個別ケア会議を開催した９件のうち、７件ぐらいで妄想に振り回されているという話があった。

●山下会長
　認知症の方なのか、それとも精神疾患の方なのか、もう少し状況を教えてほしい。

○北村管理者（西部北地域包括支援センター）
　高齢による認知症の方が多いと思う。全く認知症がないという方もいるが、精神疾患については、病院にかかっていないと、こちらで精神疾患と判断することはできない。
　そういった課題に対して、どのように対応していくかというのは、私たちだけではなく、専門職や地域の方の理解を深めていくことが必要になってくると考え、来年度の計画に挙げた。

●篠田委員
　妄想性障害について、本人は正しいと思っているが、まわりとは違っている場合、

どうするかというと、妄想性のものは治らないし、本人は正しいと思っているため、家族や、できれば周囲も、そういうことを認める。隠さないで、「うちの人はこうなんですよ」ということを知ってもらい、協力してもらうことが大事だと思う。今後、認知症患者も増えていくと思う。

●塚田委員
　認知症に伴う方で個別に皆で支えなければいけないケースというのは結構ある。周知することは大事だが、この間私が抱えたケースでは、ずっとお母さんだけが頑張っていて、大きな声で騒いでしまう主人を支えていたが、最終的には、やはり施設に入ろうというときに、お金の問題があった。施設に入ろうというところまで話が進んで、すぐに入れるとなったが、1 万や 2 万の金額が払えず、そこを断らざるを得なかった。在宅の勉強会でもお金の話はしたが、地域包括支援センターもインフォメーションとして与える場所であってほしいなというのはある。

●宮下委員
　成田市のケアマネジャーの数は、要介護認定を受けている、そのサービスが必要な方々に対して足りているのか。ケアマネジャーが足りないという話をよく聞くため、全体的にどうなのか聞きたい。

○事務局
　ケアマネジャーの数と充足の状況について、統計的な数字を持っているわけではないが、事業所の方からは、数が不足している状況であるという話は聞いている。

●山下会長
　（宮下議員に対して）今の質問について、もう少し詳しくお伺いしたい。

●宮下委員
　包括の事業計画でもあったように、重層的な課題や複合化・複雑化した問題など、一つだけではない問題が本当に増えてきていて、ケアマネジャー1 人が抱えられる問題ではなく、ケアマネジャーたちは日々疲弊しながらやっている。そういったときにもちろん包括にも相談に行くし、制度的に、介護保険法だけでは解決できないことに関しては、社会福祉課や障がい者福祉課にも相談、連携を取って高齢者福祉課とは一緒に支援に動いたりするが、介護保険課に相談に行くことは少ないような気がする。
　各ケアマネジャーの辛さや、疲弊している状況について、介護保険課として、どのように考えているか。市としてどのような支援を考えているか、お伺いしたい。

○事務局
　ケアマネジャーの方々には、ケアプラン数も増加する中、ご対応いただきありがとうございます。先ほど高齢者福祉課とは支援体制がある、という話でしたが、平成 30 年度に市の組織改正を行い、高齢者福祉課と介護保険課の業務を整理し、事業所及び

成年後見の関係、見守り支援などの総合相談を高齢者福祉課が所管することになり、高齢者福祉課の職員がケアマネジャーや包括職員と一緒に訪問等を行う体制になっている。介護保険課は、地域包括支援センターの組織の運営を担当しており、今回の運営協議会についても、委員の方々にセンターの適正な運営について諮るために開催している。そのほか、介護保険制度に基づく請求事務等についても介護保険課が対応している。

また、介護保険課のケアマネジャーへの支援として、ケアプラン点検に力を入れており、2 年前までは書面で行っていたが、居宅介護支援事業所の管理者の方と市のケアプラン点検の担当者、ケアマネジャーの資格を有した会計年度任用職員との対面方式を導入した。管理者からは、新たな気づきを得て理解につながったと好評をいただいており、ケアマネジャーの質の向上に向けた支援を実施している。

市としては、ケアプラン実務のほか、地域でその方をどう支えていくかという観点から、例えばケアマネの役割、地域の方々、民生委員、ドクターなど、各々の役割分担のところをしっかりと構築できれば、それもケアマネジャーへの支援につながると考えている。そのため、体制整備を市の方で着実に進めていけるように、包括職員等とも支援しながら、これからも一緒に、良い形で連携を取ることで支援していく。

●山下会長

成田市のケアマネジャーの方が、複合的な課題のケースも含めて、ケアプランとその周辺の生活課題の解決を目指そうとしているというのが、西部北などで相談件数が増えていたり、8050 や多機関で協働しなければいけないケースも出ている。解決を目指すという発想ではなくて、その方とつながり続けるということについて、ケアマネジャー1 人でつながり続けるのか、先ほど介護保険課長の言っていたように、地域の方々とつながり続けるような仕組みを作っていくという観点に立った、新しいケアマネジャーの仕事の仕方を模索していかないと、これからの地域包括支援センターの業務も含めて、すぐには解決できないケースというのも目前に多くある中で、その方が私たちの力を使いながら自立していくというのが基本なので、私たちでサービスを提供して解決するというケアプランを作る人たちではないという観点からすると、その方がまだ支援の入り口に立っていないということになる。それがご本人の場合もあれば、家族の影響や経済的・金銭的なこともあって、サービスにつながらないという方もいる。それをそのケアマネジャーの方がどのようにケースに関わっていくか、というのをご自身で解決していくか、管理者がどのように指導していくか、という力量の問題も併せて、これから課題になると思う。

ケアマネジャーの現任者研修で色々なケースを提出しなければいけないということをケアマネジャーの方から聞いて大変だなと思ったが、それは従来のケアプランではない支援の仕方とか相談の仕方とかその仕組み作りというのを、地域包括支援センターと協力しながら、介護支援事業所がどこまでやれるかという事業者の力量を見定めながら役割を果たしていく。そこをしっかり一つにすると職員の方が疲弊してしまうので、スタンディングポイントというのと、着実に向上させていくという観点で、管理者の仕事が一つ確保されると思う。

●篠田委員
　今後の課題等について、3 つほど提示させていただく。先程から出ているとおり、要支援者を身近な地域で支えるネットワークの構築。簡単な言葉であるが、非常に難しい。やり手がない。それらを養成するコースなど、色々な手法を使ってやらなければいけないと思う。
　それから、地域包括支援センターを支える市のバックアップ体制の強化が必要であると思う。応援要員や、経済的援助など。できれば市に統括地域包括支援センターというのを設置していただいて、全体を統括して整備をしていく。
　それから、最後に介護予防対策の確実な実施と継続、それから従事。今色々しているが、なかなか継続していかない。
　要望のため、回答は不要。

●長島委員
　西部西について、「元気クラブ」と「いきいき百歳体操」の違いは何か。名前が変わると年配の方は抵抗感があったりするので、お伺いしたい。

○木下管理者（西部西地域包括支援センター）
　元気クラブは、地域包括支援センターと公津地区社会福祉協会、それぞれの地区の自治会や区、老人クラブなど、それぞれの歩いていける範囲単位の各地区で共催という形でクラブを立ち上げていますので、今現在立ち上がったのが 5 地区。たとえば、宗吾台元気クラブ、飯田町元気クラブ、並木町元気クラブなどとなっている。
　内容は介護予防と居場所づくりが目的なので、まずは居場所として集まっていただいて、介護予防のためのミニ講座や運動をやる 2 時間コースくらいのものを月 1 回程度のペースでやっている。
　公津地区で百歳体操がなかなか立ち上がらない要因というのが何なのかと考え、やはりリーダーになる方がいないとグループも立ち上がっていかないので、まずは元気クラブでチームができたら、百歳体操をやってみませんかという声掛けをしていって、やってみようかということになれば、なおいいなという感じで思っている。元気クラブはそのまま、次年度もどこのクラブも継続してやっていこうという感じで企画している。

●長島委員
　元気クラブと百歳体操を並行してやっているということか。

○木下管理者（西部西地域包括支援センター）
　そうです。

●長島委員
　私も継続的に百歳体操の体力測定とかやっていただいているが、その結果が欲しい

な、と個人的に思っている。そうするとその結果によって、また参加者も数値を見るとちょっと頑張ってみようかなという気持ちが出るかなと思うが、その辺のところはきっと介護保険課の方と検討なのだろうと思う。ぜひよろしくお願いしたい。

●北村委員
　包括の方には、いろんなお仕事をやっていただいて、非常に大変な思いをされていると思う。その点で、やはり人手が本当に本格的に足りてないのかなと思うことも多々あるので、ぜひ成田市からの支援も今まで以上にお願いしたいと思う。

●吉田委員
　私も包括の方や介護保険課、皆さん共に大変なお仕事で、本当に頭が下がる思いである。うちの近所でいうと、コロナとか関係なく、ホーム村田とか老人クラブは毎回たくさんの女性が集まってグランドゴルフをしているとか、食事会もやっている。
　あとニュータウンって呼ばれる地域じゃないことが、本当に昔からの村であるっていうことが、すごくつながりが高いので、その地域の中に同級生や親戚、兄弟もいるという人がかなり多い。地域のつながりもあり、米と野菜はコロナでも毎日成長していたので、皆さんそういうお世話で外に出る機会も多い。
　だから、深刻な話っていうのはそんなに聞かないし、3 年 4 年経って顔を合わせても年取って腰曲がっちゃったんだよって言っても、まだ元気でお米を作っているっていう方もいらっしゃるので、そういうことが介護を受けずに元気で暮らしていく下積みなのかと思っている。

●山下会長
　それぞれのセンターから圏域の課題をご説明いただいているが、それと重点目標とか各事業の業務にちょっと簡易化していくというか、客観的な課題なのか、解決したい課題なのかというのが分かりにくい、という点がないわけではないので、次年度以降はそういった課題の捉え方も成田市の方とよく協議をしながら、その作り方について取り組んでいけたらと思う。
　もう一つ、南部の方で災害のことについてあったが、たとえば災害時の個別避難計画というのは、努力義務になっていたり、要支援者の名簿を作成するようになっているが、災害時の避難計画の作成は努力義務なので、もし具体的な連携を図り上げるのであれば、具体的なことを明記しながら進めていくとよいと思う。

（2）地域密着型サービスの運営等に関すること
〇事務局
　「地域密着型サービスの運営等に関すること」に関して説明。

　その際の質疑は、特になし。

（３）その他

委員の任期満了と委嘱について説明。

その際の質疑は、特になし。

〈議事終了〉

6　傍聴

１人

7　次回開催日時（予定）

令和５年８月